

Fabricante de vinho verde que abre uma nova era

Green Manufacturer wine that opens a new era

PUNTA NEWS MAGAZINE

魅力あるビジネスライフと自分スタイルのためのニュースマガジン

ヴィーニョ・ヴェルデ新紀行 後編：新時代を切り開く造り手たち

By 岩本順子・2015-03-26



ライフ&スタイル ▾ グルメ・レジャー ▾ ファッション・コスメ 環境・エコ チャリティ

いいね! 128 | 8+1 | 1 | ツイート | 10 | 1 | LINEで送る | チェック

後編では、綺麗なようなワイナリーを北から南へと順にご紹介しよう。

モンサオン＝メルガソ地域のアルヴァレドにある Soalheiro (ソアレイロ) のテイスティングルームからは、ミーニョ川と対岸のスペイン、ガリシア地方が見える。創業1982年の同社は1974年からこの地でアルバリニョの栽培を始めたジョアン＝アントニオ・セルデイラが興した醸造所だ。



スペインとの国境近くに位置するソアレイロ (c)Soalheiro

現在はルイス・セルデイラが亡父の志を継ぎ、トップレベルのアルバリニョを生産している。彼のアルバリニョ・コレクションは、スーパークリングワイン、伝統的なアルバリニョを表現した辛口、シングルワインヤードのぶどうを自然熟させた「Primeiras Vinhas (プリメイラス・ヴィンニャス)」、オーク樽熟成の「レゼルヴァ」などバラエティ豊か。収穫のタイミングに細心の注意を払うほか、スティールワインはいずれもスキンコンタクトを行い、場合によりシュール・リー製法を取り入れ、個々のワインの理想的な姿を追求。上品なトロピカルフルーツの香りとミネラルリティが共存する彼のワインからはアルバリニョの表現力の豊かさを知ることができる。

同じくモンサオン＝メルガソ地域のサーに拠点を置く MQ Vinhos社は、アルバリニョ「Vale dos Ares (ヴァレ・ドス・アレス)」1種類だけを生産しているマイクロワイナリー。オーナーのミゲル・ケイマードの曾祖父は1856年に地元の協同組合を設立した人物。ミゲルは祖母の家を改修し、2012年に醸造所を興したばかりだ。ワインは祖父から受け継いだシスト土壌の畑の雄辯の高いアルバリニョから生産している。醸造を担当しているのはガブリエラ・アルブカーキ。タスマニアなどでの醸造経験を持つ彼女のモットーは「それぞれの年のぶどうが語る」ワイン。アプリコットや桃の風味、抑制の利いたエレガントなアルバリニョだ。



アルバリニョのスペシャリスト、ルイス・セルデイラ

リマ地域、アルコス・デ・ヴァルデヴェスにあるAphros Wine（アフロスワイン）はピオディナミを実践している醸造所。オーナーのヴァスコ・クロフトは家具デザイナーからの転身。シュタイナーの人智学を学び、シュタイナー思想の普及に関わったこともある。彼が実家の醸造所、Quinta do Casal do Paço（キンタ・ド・カザル・ド・パソ）を継いだのは2004年のこと。リマ川とその支流域はロウレイロ栽培の適地。彼のロウレイロ・コレクションは、スパークリングワインのほか、軽快な造りの「TEN」、伝統的なスタイルを追求した「LOUREIRO」、一部をオーク材やクリ材の樽で仕込んだ「DAPHNE（ダフネ）」、ソーヴィニヨンブランをブレンドした「AETHER（アイテール）」など多彩だ。

スティールワインはいずれもスキンコンタクトとシュール・リー製法を取り入れている。ロウレイロはローレル（品種名の由来）やライチー、桃やメロンなどを思わせる高貴な風味。作画的な醸造法を可能な限り排除したワインは優雅な味わい。醸造担当はベドロ・ブラヴォ。バイラーダ地方のジョゼ・カヴァリエイラをコンサルタントに迎え、スパークリングワインに力を入れはじめたところだ。



ルイス・セルレイラのアルバリニョ・コレクション (c)Soalheiro

バスト地域のQuinta da Raza（キンタ・ダ・ラザ）は伝統ある家族経営の醸造所。オーナーのディオゴ・テイシェイラ＝コエーリョは17歳で実家の醸造所を継ぐことを決意した情熱的な造り手。彼も単一品種のヴィーニョ・ヴェルデに力を入れており、ブレンドの他に、Dom Diogo（ドン・ディオゴ）ブランドの白のコレクションにはアルヴァリーニョ、アrinto、アヴェツォ、そしてアザールがある。ヴィーニョ・ヴェルデ地方の南部でしか成熟しないというアザールは、柑橘類とリンゴのフレッシュな風味が魅力的だ。